



赤嶺 奈津江 議員

子どもたちが 地域で活躍する場を

答 何が可能なのか検討していく

問 子どもたちが地域で活躍できる場や将来の南風原町を考案提案できる場として、子どもまちづくり会議ができませんか。

副町長 開催が可能なか検討していく。

問 スポーツ以外でも町内の小学生が交流できるイベントを企画できないか。

教育部長 4小学校の子どもたちが集まって交流ができる場を考え企画していきたい。

問 子どもたちの未来について子どもたちの意見を聞く場や活躍できる場ができないか。

町長 子どもたちは無限の可能性を持っている。いろんな面で子どもたちの問題提起には、ハッと驚かされる部分がたくさんある。大いに取り入れていくことも大事かと思う。

これからの
まちづくりを問う

問 町は、4小学校区ある。校区単位で校区まちづくり推進事業を行うことができないか。

副町長 先進事例を研究したい。地域特性や自主性を尊重しながら支援していく。

地域活性化の
担い手育成を

問 地域活性化の担い手を育成する「ふえーばるまちおこし塾」ができないか。

副町長 住民会議の延長線上で展開が可能か、あるいは全く新規に取り組んだほうが良いのか先進地の事例も調査・研究のうえ検討していく。

沖縄県工芸振興
センター跡利用を

問 照屋区にある沖縄県工芸振興センターが豊見城市に移転する。その跡地を利用し、交流型宿泊施設等として利用できないか。

副町長 契約終了時に更地にして返還する契約である。施設の老朽化などもあり、提案の宿泊施設としての利用は難しいと考えている。

経済建設部長 更地にした段階で地権者の意向も確認しながら、うまくマッチングができれば行政としてもバックアップしていきたい。



移転予定の県工芸振興センター